

2021 年度 学術交流支援資金 外国語電子教材作成支援

研究成果報告書

プロジェクト NO : 2-2

プロジェクト科目名 : 朝鮮語 インテンシブ 1

代表者 : 高木丈也 (総合政策学部)

主要メンバー : 柳町功 (総合政策学部)、高在弼 (総合政策学部)

1. プロジェクトの概要

SFC 朝鮮語研究室では、2016 年度以降、朝鮮語教材の充実化を図るべく、テキスト、ワークブック、会話動画、単語学習サイトなど多様なコンテンツの開発を行っており、朝鮮語クラス受講生、ひいては日本の朝鮮語学習者の学習環境改善に貢献してきた。しかし、このような成果を収めている一方で、昨今のコロナ禍におけるオンライン授業に対応した教材作成が未だ不十分であること、外出自粛、渡航制限が続く中、日本という非イマージョン環境にあつて、必ずしも十分な量の朝鮮語コンテンツを学生に提供できていないことなど、新たな課題が出現しているのも事実である。例えば、オンライン授業にあつては、各学生の文法・語彙の定着度を測定するのに時間を要するため、従来型のインタラクティブなクラス活動に割ける時間は制限を受けざるをえない。また、会話・リスニング・読解力向上にあつては、何よりも学習言語との接触機会が重要になるが、習熟の程度に応じて適切にこれをサポートする教材は、未だ十分に作成されていない。そこで 2021 年度は、こうした現状を改善すべく、目下のオンライン時代に完全対応したバージョンアップした電子教材の開発を行った。具体的には、(1)反転授業動画、(2)タスクベースのリスニング教材、(3)多読・多聴用の会話音声教材という 3 つのコンテンツの作成を柱として、授業の内外で弾力的に活用できるオンデマンド教材の開発を急いだ。今年度作成するコンテンツが完成することで、初修クラスであるインテンシブ 1 (ベーシック 1, 2)における学生の学習効率が大幅にアップするばかりか、オンライン授業やレベル差に対応した学習支援が可能になり、開発が遅れている日本におけるオンライン朝鮮語教育の発展にも寄与できると確信する。

2. プロジェクトの具体的内容

上述のように本プロジェクトは、(1)反転授業動画の作成、(2)タスクベースのリスニング教材の作成、(3)多読・多聴用の会話音声教材の作成という 3 つの大きな柱から構成される。これらの教材は、いずれも朝鮮語インテンシブ 1 のメインテキストである『ハングルハングル I』(高木丈也、金泰仁著、朝日出版社、2020 年。以下、テキスト)と連動するものである。各教材の概略は以下の通りである。

(1)反転授業動画

カフェでの店員と客の軽快な対話をモチーフにしたアニメーションにより、朝鮮語を表記する文字であるハングルの基本的な読み方、発音変化(子音同化)の規則をやさしく学ぶ動画教材である。テキストの第1課から第8課【文字と発音編】の内容に相当し、計11本の動画を作成した。各課のエッセンスを気軽に、楽しく学べるコンテンツで、授業前にはブレインストーミング用として、授業後には振り返り用として使用することが期待される。



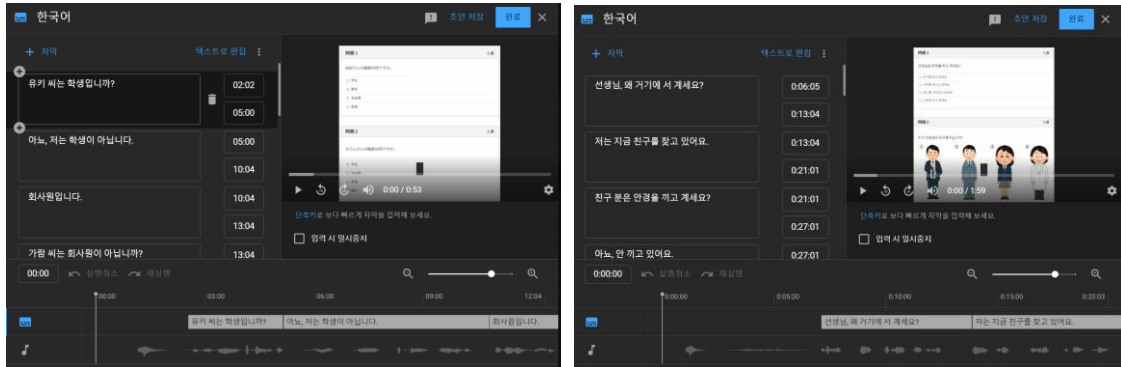
カフェの店員が客にハングルの読み書き、発音を教えるという設定

(2)タスクベースのリスニング教材

テキストで習った文法項目や語彙が含まれる対話を聴き、その中に含まれる様々な情報を検索させるタスクベースのリスニング教材である。テキストの第9課から第25課【文法・表現編】の内容に相当し、計17本の教材を作成した。授業で習った文法・表現の実践練習はもちろん、初めて聞くセンテンスの中から必要な情報を適切に抽出するスキルを涵養するための教材としての役割も期待される。

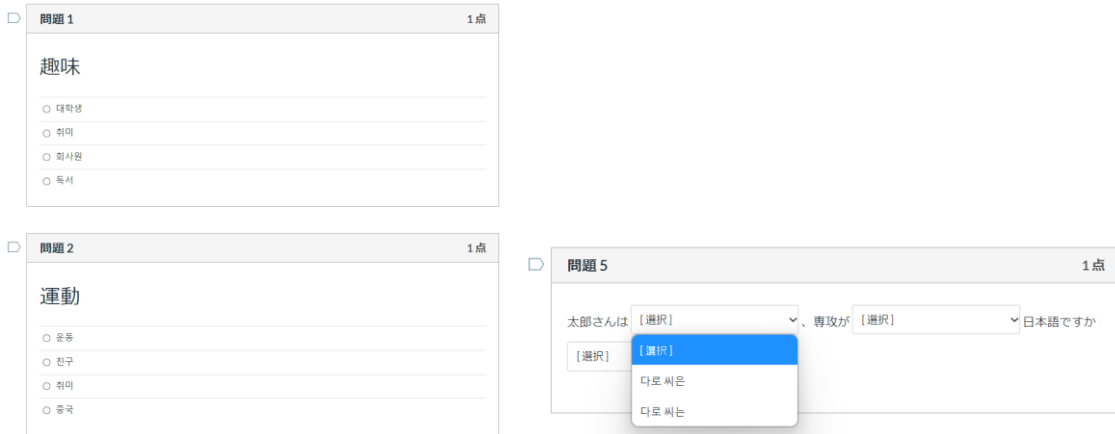


タスク(クイズ)ページ



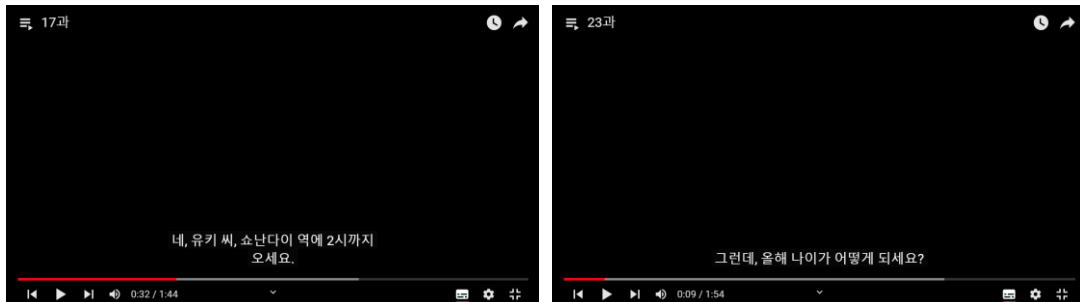
タスク(クイズ)作成ページ (YouTube Studio)

[参考] SFCの朝鮮語クラスにおいては、SOL (LMS) 上での解答ができるようにもし、履修者の学習管理、成績評価時の便宜を図った。



(3) 多読・多聴用の会話音声教材

会話を繰り返し聞き、耳慣らしをしたり、シャドーイングするための音声教材である。テキストの第9課から第25課【文法・表現編】の内容に相当し、計17本の教材を作成した。字幕の有無、あるいは発話の速度の調節などにより、学習者のレベルに合った練習ができる点がメリットとしてあげられ、本教材の活用により、聴解力、発音の向上が期待される。



まずは字幕有、スロー再生から始め、徐々に難易度を上げていく

上記教材の作成は、主に日本国内（主に SFC）で行われたが、一部、高在弼君のサポートを受け、韓国 ソウル大学でも収録を行った。当課題の研究期間における具体的な作業内容を示すと、以下の通りである。

<2021 年 6～7 月>

既存の教材分析、SFC 教員、および教材作成協力者とのオンラインミーティングを複数回、実施

<2021 年 8 月>

ソウル大学で(2)タスクベースのリスニング教材、および(3)多読・多聴用の会話文音声教材の収録

<2021 年 9～10 月>

上記教材(2)(3)の編集、ハンゲル字幕挿入作業、アップロード(順次)

<2021 年 11 月～2022 年 1 月>

(1)反転授業動画に関する打ち合わせ(コンセプト・台本の調整、撮影地・機材の確保、台本練習)

<2022 年 1 月>

上記教材(1)の収録

<2022 年 2 月>

上記教材(1)の編集(映像、音声、字幕)、アップロード(順次)

3. 本プロジェクトの成果

本プロジェクトの成果は、以下の 3 点に集約される。

1 つ目は、時間と場所を選ばない学習が可能になるという点である(教材(1)、(2)、(3))。電子教材は、学生のオンライン環境や体調、学習進度に合わせて授業中や授業の前後など、多様な用途で使用可能であるばかりか、必要な部分は繰り返し何度でも利用可能であるという点も語学学習においてはメリットが大きい。また、反転授業の導入により、学生は学習内容のブレインストーミングを事前に済ますことになるため、授業時間にはよりコミュニケーション活動にフォーカスした授業運営をすることができる。その結果、レベル差を解消し、クラス全体の朝鮮語運用能力の向上が見込めるという成果も期待できる。

2 つ目は、初聴・初見の(会話)文に対する耐性をつけさせることが可能になるという点である(教材(2))。一般に入門期には、教科書に提示された限られた会話文や例文を繰り返し

練習することが多い。その一方で実際の言語使用や実践場面においては、初聴や初見の(会話)文を聞いて、自らが理解し、インターアクションを継続していかなければならない。当リスニング教材では、入門期から段階的に教科書以外の文に触れる機会を提供することで、中長期的には、一般の教室授業や教科書だけの学習では得られない、より主体的なリスニング能力が涵養されると期待される。

3つ目は、よりリアルな会話能力の向上、文化の理解を促進させることが可能になるという点である(教材(1)、(2)、(3))。例えば、教材(1)の動画は韓国風カフェでのやり取りをモチーフにしており、教材(2)の会話文は単に学んだ文法項目の確認の場だけでなく、朝鮮語圏の社会や文化、習慣を学ぶことができる1つの機会としても位置付けている。さらに(3)の多読・多聴教材は、リピート練習やシャドーイングに活用することで、自然な言い回しやイントネーションの習得に役に立つと期待される。そのため、当教材を通じて、朝鮮語圏の言語社会を疑似体験することが可能になり、学んだ言葉が実生活の中でどのように使用されているか、をより明確に意識することができるようになると期待される。

4. 成果物

本プロジェクトの成果物は以下の URL から参照可能である。

(1)反転授業動画 【第1課～第8課】

<https://www.youtube.com/watch?v=esEqjmkBGYg&list=PLeJdVuDvwG0fzYxfmvL64X2cof6xshZcd&index=1> (課はプレイリストから選択)

(2)タスクベースのリスニング教材 【第9課～第25課】

<https://www.youtube.com/watch?v=otwQBjfxcc4&list=PLeJdVuDvwG0d009oVlPI4DKtG3tugjzaC&index=1> (課はプレイリストから選択)

(3)多読・多聴用の会話音声教材 【第9課～第25課】

https://www.youtube.com/watch?v=JzDHd1avNLI&list=PLeJdVuDvwG0fXq9YcsQ_4Y4304WqxelX&index=1 (課はプレイリストから選択)

教材(2)は2021年度秋学期の朝鮮語インテンシブ1、ベーシック1、2の各クラスで使用し、学生のリスニング能力向上に十分に資するものであることが確認された。また、教材(1)、(3)に関しても2022年度春学期以降、当該クラスのシラバスや授業内で広く告知して学習者の便宜を図る。今後はさらなる電子教材の開発を行いながら、塾外の学習者にもよりアクセスしやすいプラットフォームの開発を急ぎたい。

以上